

# 道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会 事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2  
北海道開拓記念館内  
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

## 第48回 北海道博物館大会報告

第48回北海道博物館大会は、2001年6月4日・5日の日程で富良野市富良野文化会館において開催された。会期が例年より早まったのは、富良野市が道内有数の観光地であり、予想される夏の混雑を避けてのことであった。



会場となった富良野文化会館

4日10時よりおこなわれた総会には、61名の参加があった。また、午後13時15分からは、一般市民も交えて特別講演、シンポジウムがおこなわれ、80名の参加があった。

総会では、とくに平成21年度事業計画(案)として10月下旬に小樽市総合博物館でミュージアム・マネージメント研修会を開催すること、9月4日・5日に稚内市で学芸職員部会研修会・総会を開催することが提案され、承認された。また、来年度は北海道博物館協会設立50周年にあたることから、次回第49回北海道博物館協会大会を記念大会とすることとし、平成22年7月中旬の予定で、札幌市において開催すること、この大会の運営については、北海道開拓記念館が中心となり、適宜、道博協石狩、後志、空知地区博物館等施設連絡協議会の協力を仰ぎながらおこなうことが提案された。

総会にあわせて、(財)日本博物館協会からは専

務理事の田村誠氏が来道され、「日本博物館協会の主要事業と最近の動向」という演題で特別報告があった。とくに、本年10月に旭川で開催される日本博物館協会大会に言及され、おおくの道内博物館の参加を呼びかけられた。



丹保憲仁会長の挨拶

また、北海道博物館協会表彰は、中村博物館学研究所長 中村齋氏が受けられた。

中村氏は、昭和45年、北海道開拓記念館開設準備室事務所の研究職員になられ、その後、北海道開拓記念館学芸部長、(財)北海道開拓の村学芸参事、上湧別ふるさと館JRY館長、(財)アイヌ民族博物館館長などを歴任された。また道内大学学芸員過程でも長く教鞭を執ってこられ、学芸員養成や生涯学習支援など、博物館の発展に尽力された。

(財)アイヌ民族博物館館長 牧野正典氏の推薦を受け、このたび表彰を受けられた。



熱心に説明を聞く参加者  
(ポスターセッションにて)

ポスター解説では近年には珍しく、学術的な報告が3件あった。

えりも町における木造磯舟について（中岡利泰氏）、シャチ骨格標本の製作・展示について（安達達郎氏）、中小型食肉目の長期モニタリングと課題（村上隆広・中川元氏）であった。このほか、（有）ナチュラルリーの書籍の販売があった。

午後からは、斜里町しれとこ博物館中川元館長の総合司会のもと、「五感を呼び覚ます博物館活動～豊かな感性・知的好奇心・想像力をはぐくむために～」をメインテーマに掲げた特別講演とシンポジウムがおこなわれた。

まず、NPO法人 樹木・環境ネットワーク協会理事長の澁澤寿一氏が「日本の森に培われた暮らし」と題する特別講演をおこない、森づくりのプログラムに参加する高校生の意識の変化を中心に、氏が企画するプログラムを紹介された。

このあと、富良野市生涯学習センター ボランティア友の会会長で東京大学富良野演習林にながく教鞭を執られた倉橋昭夫氏のコーディネートのもと、澁澤氏を交えシンポジウムに移った。

『感じる』から『考える』へと展開する博物館活動～学校教育との連携を中心に～と題して北海道教育大学旭川校准教授 大鹿聖公氏が、実際の教材を提示しながらの興味深い教育実践を紹介された。

地元富良野市からは、NPO法人C・C・C富良野自然塾フィールドディレクターの齋藤典世氏が参加。「心におちる体験を目指して」と題し、美しい映像をもちいての興味ある活動実践を報告された。

この後、会場からの質問に答えるかたちで、シンポジウムは進行、会場からは熱心な質問が相次いだ。



シンポジウムハネリストの皆さん  
左から大鹿氏、齋藤氏、澁澤氏



シンポジウムでは熱心な議論が続いた

二日目は、やや小雨が交じる曇り空のもとではあったが、バス見学会をおこなった。

最初に向かったのは、北の峰山麓富良野プリンスホテル裏手にあるC・C・C富良野自然塾。この場所は、かつて国土計画がゴルフ場として開発したところである。それを閉じることになったとき、その跡地利用について、劇作家の倉本聰氏がホテル側から相談をうけたことがきっかけとなり、現在のような植林をしながら、地球の歴史、森の意義を学ぶ体験型プログラムをおこなう場所となったということである。

参加者は、昨日の講師齋藤典世氏の軽妙なガイドによって、プログラムの一部を実際に体験し、昨日のシンポジウムで議論されたことを興味深く確認することができた。

その後、バスは、富良野市博物館へと向かい、富良野市教育委員会生涯学習センターの杉浦重信所長、上堀義文氏、澤田健氏の説明で博物館の展示を見学した。



C・C・C富良野塾で熱心に見学する参加者

富良野市側からは、教育長はじめ教育委員会の支援を受け、また生涯学習センターボランティア友の会や富良野市緑峰高等学校の生徒さんも社会体験学習でお手伝いいただいた。

心配された雨も大降りにならず、正午に富良野駅前解散した。 （事務局 出利葉浩司）

道南ブロック  
News

## 道南の博物館活動について

道南ブロック博物館施設等連絡協議会に所属している各施設では、今年度も普及活動の一環として特別展や講座そして観察会などさまざまな博物館活動を行っている。すでに終了したものもふくめて、一部を紹介する。

上ノ国町教委と北斗市教委共催で、15世紀後半に築かれた「勝山館」(上ノ国町)と矢不來館(北斗市)の出土品を比較展示する企画展「上之国と下之国」を巡回展方式で開催。4月25日から8月2日の期間は、上ノ国町の勝山館ガイダンス施設で展示。8月9日から9月5日までは、北斗市総合文化センター・かなでーるで展示。

道立函館美術館では、洋の東西を問わず宗教の「祈りのかたち」を牧島如鳩の約120点の作品により紹介する「神仏大集合! 牧島如鳩展」が5月30日~7月12日まで開催。

七飯町歴史館では、館収蔵の衣類や道具を紹介しながら装いの変遷を理解してもらうため、収蔵展「装いに見るくらしと道具」を5月16日~6月24日まで開催。

道北3管内  
News

## 年間テーマは「昭和」

平成20年度の主催展示会では、年間テーマを持たせようとの試みで「昭和」の時代設定にしてみた。「暮らし道具」「映画ポスター」「ファッション」「建物」「ラジオ・ステレオ」の各分野の展示会はいずれも好評であった。自らの生活体験と重なるためか、中高年の夫婦が長く観覧され、会話が弾んでいたのが印象的であった。

一連の展示の中で「建物」の展示会では写真ではなく単色の水彩画を展示した。館で例会を開いている水彩画同好会の講師の方にお願ひし、現存しない対象建物の時代や角度を変えた複数の写真を提供し、最も建物が生き生きしていた頃の外観を作品にいただいた。外壁の改修や周囲の不要物を除くことができ、復元的に描いていただけたのも絵ならではの利点であった。

名寄市では、昭和50年代に旭川市の北海道東海大学芸術工学部の川島洋一先生と共同で市内の古建築物の一斉調査を行った。市街地、郊外の建物約130棟を調査し、うち64棟を『名寄の古建築物』(名寄叢書第5巻 1984)としてまとめた。今日

八雲町郷土資料館は、館収蔵の絵画から女性と花をテーマにして選んだ、西村計雄や荒木義太郎など17名の作家の水彩画や油彩画そして日本画など28点を展示する収蔵美術展「花と女性」を5月16日~6月3日まで開催。

市立函館博物館では、特別企画展「アイヌの美-カムイと創造する世界-ロシア民族学博物館・オムスク造形美術館所蔵資料」を7月18日~9月6日まで開催。150年前の箱館開港当時の露西亜が収集し現在ロシア民族学博物館・オムスク造形美術館に所蔵されている資料の中から、アイヌ生活用具約200点と平沢屏山のアイヌ風俗画12点を紹介する。

展示以外では、今金町ピリカ旧石器文化館でコハクの勾玉作りを実施。観察会では、せたな町大成郷土館や知内町郷土資料館で、「春の植物観察会」や「野鳥観察会」などを実施。5月5日には五稜郭タワーで「凧づくり・凧揚げ大会」が開催。

ほかにも「旧道を歩く」「農業に挑戦」や「文化財探訪」「郷土学」等の子どもから大人までを対象にした講座を実施している。

今後とも充実した博物館活動を行なうことで、地域の教育施設としての存在意義が高められるものと期待される。

(知内町郷土資料館 学芸員 高橋豊彦)

残っているのは、寺院などを含め20棟前後である。

動かせるモノは、収蔵スペースがある限り保存できるが、居住者や管理者が不在となった建物の保存・維持には指定・登録文化財となっても多額のお金が必要となる。時の流れと共に失われる一般の建物の保存には、写真、動画などの記録媒体と模型など手段はあるが、建物本体がなくなるのが決定的である。建物には、周囲を含め居住や出入りしていた人たちの記憶・体験が一体となって残っている。会話が弾む観覧者を眺めながら、素朴な水彩画の表現が観る方の思い出をよみがえらせる一助になったと勝手に考えてみた。

(名寄市北国博物館 館長 鈴木邦輝)



「銭湯 (水彩画)」

網走管内  
News

## 博物館網走監獄

## 農園体験ワークショップ&amp;フードマイレージ

本ワークショップは農園刑務所網走の特徴を理解し、刑務所の運営理念である自給自足を参加者自身に体験してもらうため、9年前から博物館内に畑を造成し、開催しているワークショップです。

5月の植ええから始まり、11月末の食品加工までを一貫して行う5回の連続講座で、親子で参加することがこのワークショップの特徴です。

今年は、白大豆・黒大豆と5種類の芋を育て、収穫し、味噌、豆腐、ケーキに加工する予定です。9月には、収穫祭も開催します。日本の刑務所では、現在も味噌や醤油を刑務所内で製造し、日本中の刑務所で被収容者が毎日食べているのです。

ワークショップ当日は、生憎の曇り空でしたが、作業するには、適度な気温で、畑起こしに、畝きり、種芋切り、肥料蒔きなど一連の作業を4時間にわたり行いました。

明治期の農業に想いを馳せてのワークショップですので、近代的な機械を使わない方法で行うため、参加者の方は、鋤を持つ手も覚束無い様子で悪戦苦闘の連続でした。

しかし、親子で励まし合い「農家の仕事って大

変だね」「ジャガイモが本当になるの」「疲れた」といいながらも楽しそうに会話が弾んでいます。

このワークショップを通じて、私たちが毎日食べている物に対する感謝の気持ちや、物を育てる喜び、自分の住んでいる土地で作物を育て、加工し食すこと、すなわち地産地消フードマイレージについても理解が深まり、今後も参加者が自ら実践するきっかけになれば幸いです。

来月は、除草と土寄せ作業が待っています。

7ヶ月間に亘るワークショップが豊作と共に、参加者にとっても実り多い体験となることを願っています。

(博物館網走監獄 学芸員 今野久代)



畑を耕すワークショップ参加者達

あるレザノフの来航に端を発すゴロウニン事件とその解決にあたった高田屋嘉兵衛の活躍など、ロシアの毛皮生産拡大にむけた東方進出と根室の歴史は少なからず関係があります。

こうしたほかの地域にはない、根室独特の自然環境や歴史とラッコの関わりが意外と深いものであることを再認識させられました。期間中は釧路川で撮影したラッコの写真を提供してくれる来館者も多く、そのつど展示資料に加えていきました。また、展示計画段階で「大日本物産図会」のウルップ島でのラッコ猟の様子を描いた錦絵を寄贈してくれる市民もいて、だいふ助けて頂きました。釧路川のラッコはその後、根室市納沙布岬に移動してきて、2～3頭が集まっています。歯舞群島のラッコの数が増えているのかもしれませんが。

(根室市歴史と自然の資料館 学芸員 猪熊樹人)



根室市花咲港小学校が総合学習の時間でラッコの生態について学びました

道東3管内  
News

## 「らっこ展」を開催しました

根室市歴史と自然の資料館では、平成21年4月7日から6月14日の日程で「らっこ展」を開催しました。2月頃から釧路川にラッコがあらわれ、「くーちゃん」の愛称で全国的な話題になりました。当館は1996年に根室市落石岬で定置網にかかって溺死したラッコのはく製と骨格標本を保管していましたので、それを中心にラッコの生態や分布などを紹介した企画展を実施しました。また、アイヌの人々やロシア人とラッコの関わりなどの歴史なども紹介しました。

北方四島ビザなし専門家交流事業の一環として、北方四島におけるラッコの生態調査が行われたことがあり、その際の調査で歯舞群島の一部であるハルカリモシリに約30頭のラッコが生息し、繁殖していることがわかっています。根釧地方に出現するラッコは、歯舞群島にいた個体であると考えられています。領土問題に阻まれ、歯舞群島には簡単に行くことはできませんが、歯舞群島は根室市の行政区域になっていますので、根室市内にラッコの繁殖地があるといつて良いでしょう。

また、ラクスマンの根室来航や露米会社代表で

日胆地区  
News

## 平成21年度日胆地区博物館等連絡協議会 総会・研修会 5月20・21日様似町で開催

平成21年度 日胆地区博物館等連絡協議会の総会・研修会が、5月12日・13日の2日間に渡って、様似町のアポイ岳調査研究支援センターにおいて開催されました。(研究者向けの滞在自炊施設)

研修会は、最初に地元様似町ウタリ生活相談員大野徹氏による「アイヌ民族をめぐる昨今の動き」と題し、北海道旧土人保護法、アイヌ文化の振興並びにアイヌ伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律(通称「アイヌ文化振興法」「アイヌ新法」)、二風谷ダム裁判、イオル、先住民族の権利に関する国際連合宣言、アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会等々について矢つぎ早に解説されました。結びに、4月下旬北海道アイヌ協会様似支部が、町内に伝統家屋「チセ」を完成されるまでの苦勞等について話しをされました。

その中で大野氏の「文化伝承には、後継者の育成が欠かせないが、地域の過疎化が大きな影を落としている。」という指摘には強く共感しました。

続いて、開発肥料株式会社 特別技術参与 農学博士 稲津 脩氏の「北海道の土壌と米づくり」

についての講演Ⅱです。稲津氏は平成17年度立中央農業試験場を定年退職するまで、水田の土壌、肥料に関する研究や北海道米の食味向上に関する研究などを永く続けてきました。

氏は、地形の形成として6,500万年前や2,500万年前の北海道の成り立ちから話をはじめ、続いて土壌形成の基盤となる岩石と火山灰、さらに北海道の土壌の特色及び、北海道の水稲について話されました。

特に、稲津氏の言葉のはしばしに宮城県のササニシキや新潟県のコシヒカリに対する強いライバル意識と、北海道の稲作に夢と希望を与える熱き応援が心に残りました。

(様似町郷土館 館長 水野洋一)



研修会 稲津脩氏の講演

石狩・後志  
空知地区  
News

## 平成21年度 総会・研修会・役員会

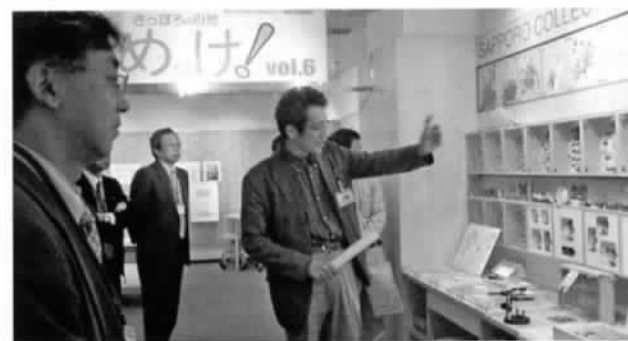
吹く風も夏めいてきた平成21年5月28日、石狩・後志・空知地区博物館等連絡協議会(通称：道央ブロック)の平成21年度総会、第1回研修会及び第1回役員会を札幌市博物館活動センターに会場をお借りし、開催しました。

総会では、紺野会長(北海道開拓の村理事長)の挨拶に続き、ご来賓の札幌市市民文化課課長藤田慶一様よりご挨拶をいただき、議事に入りました。議題は、平成20年度の事業報告及び収支決算報告並びに平成21年度の事業計画(案)及び収支予算(案)などが審議され、いずれも事務局案のとおり可決されました。その他の議事では、平成22年度北海道博物館協会総会及び北海道博物館協会設立50周年記念事業等の実施体制等について、小林監事(北海道開拓記念館学芸部長)より説明があり、続いて岩内町郷土館(ばとりあ岩内)坂井館長より施設の紹介などがありました。

総会は、会員が一同に会する数少ない機会ですので、議題の審議のみにとどまることなく、施設や行催事等PRや情報の交換などの場として活用

していただければ、より充実した内容の会議となり、総会への出席者がより増加し、ひいては会員の増加に繋がるものと思われました。

総会後の研修会では、講師の札幌市博物館活動センター古澤仁学芸担当係長、並びに山崎真実学芸員から、札幌市博物館活動センターの活動内容や展示・収蔵資料等の解説・紹介をユーモアを交えながらしていただき、和やかな雰囲気の中で盛り多い研修会となりました。講師の古澤様並びに山崎様には紙面をお借りし、改めて厚くお礼を申し上げます。



古澤氏のご案内で施設見学中

詳細は、『道央MUSEUMニュース』第32号(7月刊行予定)で報告します。HP「道央ミュージアムネット」でもご覧いただけます。

(道央ブロック事務局長 三谷十三男(北海道開拓の村))

学芸職員部会  
News

## 最近の健康ブーム?? を通じた新たな展開

近頃、朝夕を問わず、中高年を中心として、歩いている人をどこの町でも見かけます。こうした状況は2008年4月から始まった特定健診制度による、いわゆる「メタボリックシンドローム」該当者とその予備軍への警告が大きな影響を及ぼしているのは間違いないのですが、環境を意識した「エコ」志向や、さらには世界同時不況も重なったためか、世間は加速度的に「健康ブーム」再来に染まってしまったような気がします。

富良野には、「北海道ノルディック・フィットネス・ウォーキング協会(HNFWA)」突いて歩く団体があります。ポールを突くことで、冬の北海道でも安全で、なおかつ通常歩行よりもエネルギー消費量が増加するメリットがあり、道内はもちろん全国に広まりつつあるようです。

さて、このウォーキング協会の方々ですが、健康のためだけでなく、より楽しみながら歩くために、日頃歩くコースの自然をよく知りたい、市民や観光客にも伝えたいと、博物館を訪ねてくれたのは昨年のことでした。市街地近郊の朝日ヶ丘公

園を一緒に歩いて調査し、樹木の看板作りをこれまで3回実施。看板の材料は当館が用意しましたが、その他の作業は協会の皆さんがすべて担当しました。さらに今春には、「フットパス」コースを設定したいと相談を持ちかけてきた団体も出現。現在、コース設定や学習会などの講師として、ボランティアとともに協力しています。

当館では、これまで10数年継続的に自然観察会の開催や、自然観察ハンドブックの作成など、情報収集・発信を行ってきました。今その積み重ねが、より多くの市民に還元されはじめています。こうした市民の多様な要望に応えることは、これまで出会えなかった人々との繋がりを生み、今後新たな博物館活動の展望とファン層が拓けていけるのではないかと期待しています。

(富良野市博物館 学芸員 澤田 健)



手作り樹名看板設置をしたHNFWAの皆さん

動物園・水族館  
News

## 今、ダブルツインズがいる 円山動物園が面白い

昨年の12月に誕生したホッキョクグマのツインズは今年の3月20日から一般公開となりましたが、それ以降、連日多くのお客様に円山動物園をご訪問いただき、「世界の熊館」前は、カメラを構えた人々でいつも大賑わいです。実際私自身も4月にこの円山動物園の園長に着任以来、このホッキョクグマの親子のところへは毎日のように足を運んでいます。成長に合わせて日々力強さを増していく兄弟でのレスリングや、プールへの豪快なダイビング、親子の仲睦まじい触合いの仕草など、そのどれもが思わず時間の経つのを忘れてしばし見入ってしまう程魅力に富んだ光景です。

この、ツインズブームがきっかけで何年、何十年か振りに円山動物園に来ていただいたお客様が、綺麗になった園内施設や、コンビニやカフェなどの新しいサービス施設、飼育員による約50の充実したドキドキ体験メニューなど、かつての円山動物園にはなかった新たな魅力を発見して、「とっても楽しかった。近いうちにまた来ようね」と言いながら帰られる姿も多く目にします。

このほか、4月からは動物園と円山原生林が隣接するエリアに、「円山動物園の森」がオープンしました。ここでは土日一日3回、動物園スタッフが、ミニツアー形式で森の魅力と自然の大切さを解説しています。参加者からは、都心部にありながら自然豊かなこの場所で、「北海道固有の植物や昆虫などに接し、またそれを分かりやすく知ることができるツアー」だと、とても好評です。

5月に生まれた、ユキヒョウの双子の赤ちゃんも、新たな「白いツインズ」として6月後半からは、皆様にご披露させていただく予定でございますし、レッサーパンダにも出産の期待がかかります。これから夏に向け、益々面白くなる円山動物園に是非一度お越しください。

(円山動物園 園長 酒井裕司)



双子が二組



## 釧路市こども遊学館の 役割のひとつ

釧路市こども遊学館は、遊びと学びの融合をキーワードに、市の中央児童センター機能も備え旧青少年科学館を継承する形で、平成17年7月に開設されています。

さて、私は、本年4月に当館の館長になり、釧路工業高等専門学校校長先生にご挨拶にまいった折、校長先生は「理科離れ」に関する本を示され、学生確保等に苦慮されておりました。豊かになってきた社会風潮からか、面倒を避け安易に流れやすい面もあり、「理科離れ」が進み、高専等への進学にも影響が出てきているとのことでした。科学技術立国、優秀なものづくり・製造業を国の柱にしている我が国にとって、技術者、科学者等の人材養成は、重要な課題であります。

また、理科教育の充実を通して、科学技術等に興味を持つ子供たちを育て拡げることが、当館のお客様を増やすことにもつながります。そのためには、まず、理科が苦手と感じている小学校の先生や若い先生等に、実験等の研修する場を設けて、理科の楽しさを子供たちに教え、学ばせるノウハウ

を身につけていただくことも必要になります。

既に、昨年からは当館が事務局となり、科学に興味、関心を高め豊かな文化を創造する目的で、大学、高専、教育現場の教員や研究開発機関(JAXA)の皆様を構成として、道東科学教育支援ネットワーク(DoToねっ)を立ち上げております。

この活動の中で、「たんちょう先生の実験教室」～来月の理科で使える観察・実験～を月に1回程度当館の実験室で開催しております。内容は、理科の授業で使える教材・教具の紹介やその活用方法・授業案の紹介・検討、おもしろい素材やおもしろいものづくりなどを紹介し合うことなどです。この実験教室を通して、理科に興味を持つ子供たちを増やしていく、この地道な取り組みは、たいへん大事な当館の役割のひとつであり、関係者の皆様のご尽力に心から感謝しております。

また、単に理科の知識や技術を教え学ぶだけでなく、理科の実験などを通して、「なぜ」「どうして」という「科学的な心」やそれを解く考え方を育み、子供たちが「科学的な物の見方考え方」の基本を学ぶことになれば、人生で役立つ大きな生きる力を身につけることにもなります。

当館の実験教室の活動等を通して、幾ばくでも子供たちの成長につながればと期待しております。

(釧路市こども遊学館 館長 櫻井良三)

したように、小樽に潜在的にある芸術文化を掘り起こし付加価値をつけ、文化に触れること自体を目的とした小樽観光を盛り上げようとするものだった。今年の記念展は、さらに地元経済界を主体とした実行委員会を組織するに至った。美術館の運営を巡っては困難な状況が続いているが、特別展に限れば2008年度は過去5年間で最高の入館者数を更新している。

当館はもともと建物の改修費から募金をつのり、1979年8月、小樽市分庁舎2階に誕生した。熱心な市民運動によって開館した美術館であり、その後の運営も地元の熱意に支えられている。収蔵品はほとんどゼロからスタートしたが、この30年で中村善策をはじめ、大月源二、国松登ら北海道美術史に欠かすことのできない美術家や、現代版画の鬼才、一原有徳と幅広く2000点を数えるに至った。しかし根本的な美術館機能の欠如があり、老朽化も深刻な悩みとなっている。小樽運河や寿司屋通りに近いという恵まれた立地を活かしきれていない。まずはこの30周年記念展を突破口として、地元の産官学がさらに一体となって組織づくり、市民の誇りとなるような存在感を獲得したい。

(市立小樽美術館 主査・学芸員 星田七重)



## 小樽美術館 開館30周年記念展について

開館30周年記念展「画家たちのパリ」が、5月23日開幕した。3年程前から周年事業に相応しい企画をと考え、北海道出身者としていち早く留学を果たした小樽の青年画家たち長谷川昇、小寺健吉、工藤三郎に注目した。彼らが海を渡った時代は、エコール・ド・パリ華やかな1920年代。フランスの伝統や新しい美術の潮流に触れ、その収穫を帰朝後に後輩画家に伝えたことから、北海道美術の源流と位置づけられている。北海道立近代美術館の企画協力により、彼らが目にした国際都市パリの様相を切口に、エコール・ド・パリの代表的な作品群を第2部で同時に展示することが可能となった。このたび30年を節目に当館のコレクション形成の原点であった3人に立ち返り、改めて収蔵品と小樽の美術史を体系的に捉え直すというねらいもあった。

当館は2007年、2008年と、小樽商科大学芸術文化ルネッサンス研究会の協力を受けて、展覧会のプロモーション、カタログ、グッズ販売など、美術館関係者ではない外部からの新鮮な視点に立って応援をいただいていた。ルネッサンスの名を冠

### 館園の主な展覧会と普及事業

(2009年7月～10月)

#### 石狩

- 江別市郷土資料館(011-385-6466)
  - 7/18～11/8 企画展 夏期ロビー展
- 札幌芸術の森美術館(011-591-0090)
  - 7/11～9/6 クリムト、シーレ ウィーン世紀末展
  - 10/4～11/23 札幌芸術の森美術館コレクション 選抜木田光夫
- 札幌市青少年科学館 (011-892-5001)
  - 8/3・4、9/26、10/24 サイエンジャー科学教室
  - 7/18、8/22、9/26、10/3 科学館天体観望会
  - 札幌市豊平川さけ科学館(011-582-7555)
    - 7/18・25、8/1・15・22 土曜体験
      - サケたちの無料エサやり体験
    - 9/23 さっぽろサケフェスタ2009
  - つきさっふ郷土資料館(011-854-6430)
    - 6/～7/ 懐メロ(レコード)を蓄音機で聴いて頂く
    - 9/～10/ 防空指揮所跡の発掘見学と館の説明と来館PR
  - いしかり砂丘の丘資料館(0133-62-3711)
    - 8/15 化石のレプリカをつくる
    - 9/～10 絵画に見る明治初期の石狩
  - 北海道開拓記念館(011-898-0456)
    - 7/3～10/4 第65回特別展「北海道象化石展！」
  - 野外博物館 北海道開拓の村(011-898-2692)
    - 7/24～8/23 特別展「百貨店の出来たころ～商業の発達と人びとのくらし～」
    - 10/10 むらの講演会『北海道移民の型を探る』
  - 北海道立文学館(011-511-7655)
    - 8/1～9/27 特別企画展 没後10年… 三浦綾子/いのちの愛
  - 10/10～11/8 ファミリー文学館 「小林重予展—物語る庭—」
  - 北海道大学総合博物館(011-706-2658)
    - 8/1～9/27 総合博物館創設10周年記念展示「生物多様な部屋—北大の分類学の系譜」
    - 10/24～11/23 企画展示「正田写真展」
  - 北海道立三岸好太郎美術館(011-644-8901)
    - 7/25～8/23 たんけん美術館
    - 9/12～10/25 特別展「日本近代洋画と三岸好太郎」Part1

#### 後志

- 小樽市総合博物館(本館・運河館,0134-33-2523)
  - 7/4～10/31 企画展「北海道の中のアメリカ人お雇い外国人が残したもの」
  - 10/1～11/30 運河館小さな企画展「職人の道具箱」
- 小樽水族館(0134-33-1400)
  - 7/28～30・8/3～5 水族館探検隊
  - 7/25～27 磯の生物観察会
  - (財)北ヴェネツィア美術館(0134-33-1717)
    - 5/25～8/23 「ヴェネツィアガラス・神秘の水族館」
    - 8/20～11/1 「ゴッホ・ガラスモザイク絵画展」第三回
  - 小川原脩記念美術館(0136-21-4141)
    - 8/24～10/16 09造形展 風の中の展覧会VI (野外展)
    - 9/19～11/8 小川原脩 自伝風な展覧会—画業70年の軌跡—
  - 西村計雄記念美術館(0135-71-2525)
    - 8/5～9 生誕100年記念公募展「100年後に残したいふるさとの風景」
    - 9/17～11/8 開館10周年記念しりべしミュージアムロード共同展「西村計雄の世界」
  - 木田金次郎美術館(0135-63-2221)
    - 7/1～9/13 特別展示「島本融の眼：北海道銀行コレクション」展
    - 10/10 ミュージアムロードバスツアー
  - (財)荒井記念美術館(0135-63-1111)
    - 6/23～9/13 ピカソ版画展②ピカソの好奇心がいつばい

- 9/15～12/15 西村計雄美術展②色彩と線の魔法
  - 渡島
  - 北海道立函館美術館(0138-56-6311)
    - 7/18～9/6 開港150年記念 箱館—函館—ビジュアル時間旅行
    - 9/12～10/4 ニューフェイスあきのかおみせ 新収蔵秋顔見世
  - 市立函館博物館(0138-23-5480)
    - 7/18～9/6 平成21年度特別企画展「アイヌの美—カムイと創造する世界—」
    - 9/19～10/25 平成21年特別展「みなと HAKODADI ハイカラ展」
  - 七飯町歴史館(0138-66-2181)
    - 7/74～8/24 テーマ展「ななえの自然誌」
    - 9/9～10/18 特別展「ななえ果樹栽培史」
  - 檜山
  - ピリカ旧石器文化館(0137-83-2477)
    - 毎月/第3土 石器づくりセミナー
    - 7/25～8/23 ピリカの歴史展
  - 勝山館跡ガイダンス施設(0139-55-2400)
    - 4/25～8/2 平成21年度上ノ国町・北斗市巡回企画展「上之国と下之国」
  - 胆振
  - 室蘭市青少年科学館(0143-22-1058)
    - 8/8～11 夏休み科学館祭
    - 9/21～23 秋の科学館祭
  - 室蘭市民俗資料館(0143-59-4922)
    - 7/26 とんでん館寺子屋教室「拓本をとろう」
    - 8/1～9/23 陈列展「製鐵所の記念品」
  - 苫小牧市博物館(0144-35-2550)
    - 7/11～8/23 特別展「縄文美の極み—亀ヶ岡文化—」
    - 10/31 野鳥観察会 フィールド・ミュージアム—渡り鳥のひみつ—
  - のほりべつクマ牧場(0143-84-2225)
    - 毎月/土・日 飼育係によるクマのお話し
    - 5/7～11/3 バックヤード体験ツアー
  - 登別市郷土資料館(0143-88-1339)
    - 7/18～8/16 考古学マスター 2009
    - 10/3 登別縄文どきどきまつり
  - 日高
  - 沙流川歴史館(01457-2-4085)
    - 10/6～11/29 特別展「遺跡からみたコタンのくらし」
  - 平取町立二風谷アイヌ文化博物館(01457-2-2892)
    - 10/15～12/15第16回特別展「沙流川流域の文化的景観」(仮称)
  - 新ひだか町静内郷土館(0146-42-0394)
    - 4/28～1/25 町民ギャラリー企画展「アイヌ民具資料」展
  - 空知
  - 三笠市立博物館(01267-6-7545)
    - 7/18～10/12 特別展「サメの歯化石の世界」
    - 7/25、8/1・2・9 自然観察講座
  - 滝川市美術自然史(0125-23-0502)
    - 7/25～8/23 鯨島淳一郎・植物画展
    - 9/26～10/25 北海道版画協会創立50周年記念「北の大地の創造者たち」展
  - 月形樺戸博物館(0126-53-2399)
    - 9/1～10/31 上野山清貴3枚の絵
  - 上川
  - 旭川市博物館(0166-69-2004)
    - 毎週土日祝 学芸員解説 ゆきんぼ企画「あさひかわナツカシフシギ」
    - 7/11～9/23 第57回企画展「昆虫展」
  - 旭川市科学館(0166-31-3186)
    - 7/11～9/23 特別展「昆虫のふしぎな世界展」
    - 8/25～9/25 科学の夢の図画コンクール
  - 旭川兵村記念館(0166-36-2323)
    - 4/26～10/25 特別展「射的山、稲荷山、旭山—山のあゆみ—」
  - 中原徳二郎記念 旭川市彫刻美術館(0166-52-0003)
    - 7/25～11/8 鈴木久雄展—彫刻の領域—
    - 10/4 第36回中原徳二郎賞贈呈式・シンポジウム
  - 北海道立旭川美術館(0166-25-2577)
    - 7/18～10/4 あべ弘士 動物交響曲 交差するいのちの詩(うた)
    - 5/30～10/18 木の造型のプロメテウスたち
  - 名寄市北国博物館(01654-3-2575)
    - 7/25～8/23 クワガタとカブトムシ

- 富良野市生涯学習センター(富良野市博物館, 0167-422407)
  - 7/25～8/30 第17回特別展「ふらの外来生物展」
  - 9/26 富良野の自然に親しむ集い「地質」
- 宗谷
- 稚内市北方記念館(0162-24-4019)
  - 6/20～10/18 間宮林蔵展
- オホーツクミュージアムえさし(01636-2-1231)
  - 7/1～9/6 特別展「謎の岩面刻画フゴッパ洞窟」
  - 8/23 シンポジウム「謎のフゴッパ洞窟を探る」
- 網走
- 北網走北見文化センター(0157-23-6700)
  - 9/12～27 第47回オホーツク美術展
  - 10/7～11 第62回市民芸術祭①美術
- 網走市立郷土博物館(0152-43-3090)
  - 8/1～9/30 特別展「能取岬の自然展」
  - 3/1～3/31 特別展「モヨロ貝塚発掘成果展」
- 博物館網走監獄(0152-45-2411)
  - 8/1～9/27 特別展「働く馬と人…人畜力時代の馬具造材道具展」
  - 8/29・30 登り窯でレンガを焼こう！
- 北海道立北方民族博物館(0152-45-3888)
  - 7/18～10/18 第24回特別展・環北太平洋の文化IV「千島列島に生きる—アイヌと露・交流の記憶」
  - 10/31～12/13「カムチャツカ先住民調査の10年」
- 北海道立オホーツク流水科学センター(0158-23-5400)
  - 8/5～8/30 巡回展「日本の宇宙科学の歴史」
- 紋別市立博物館(0158-23-4236)
  - 7/25～8/29 特別展「化石の世界」
  - 10/3～25 企画展「アートとの対話～オホーツクからの発信」展
- 美幌博物館(0152-72-2160)
  - 7/19～10/18 企画展「うら山へ行くよう！(仮称)」
  - 8/30 博物館フォーラム「特定外来生物ウチダザリガニの現状と将来」
- 上湧別町ふるさと館(01586-2-3200)
  - 10月中旬(1泊2日) 博物館宿泊体験
- 十勝
- おびひろ動物園(0155-24-2437)
  - 7/31～8/2 夜の動物園
  - 8/22・29 夜の裏側探検隊
- 帯広百年記念館(0155-24-5352)
  - 8/22～9/6 百年記念館収蔵作品展「北海道を描いた作家たちの世界」
- 9/18～11/11 特別企画展「描かれたアイヌの世界」
- 北海道立帯広美術館(0155-22-6963)
  - 7/14～11/11 コレクションギャラリー 線のヴァリエーション
  - 7/14～9/9 没後50年 北大路魯山人展
- 神田日勝記念美術館(0156-66-1555)
  - 8/23 馬耕祭
  - 10/6～12 馬の絵作品展
- 釧路
- 釧路市立博物館(0154-41-5809)
  - 7/25～8/30 特別展「飯島一雄コレクション展」
  - 9/19～11/1 特別展「釧路沖のクジラたち」
- 北海道立釧路芸術館(0154-23-2381)
  - 8/29～11/11 マイケル・ケンナ写真展～風景に刻まれた記憶～
  - 8/29～10/4 米坂ヒデノリ「オーケストラ」
- 釧路市子ども遊学館(0154-32-0122)
  - 7/4～8/2 巡回パネル展「わたしたちのかけがえない海—はじめての海の科学」
  - 9/19～23 宇宙の日イベント
- 厚岸町海事記念館(0153-52-4040)
  - 7/13～8/30 おさかなセミナー「深海の世界をのぞく」
  - 9/12～27 海の作品展
- 標茶町郷土館(015-487-2332)
  - 9/～11/ 町内移動展「自然系登録資料移動展」
  - 9/27 郷土館講座「標茶歴史講座④『軍馬補充部川上支部と標茶の隆盛』」
- 根室
- 根室市歴史と自然の資料館(0153-25-3661)
  - 7/中旬～9/中旬 根室市歴史と自然の資料館 企画展「根室の花展」
  - 10/4 市街地史跡散歩